

○10月4日（木）3年生対象 長井勇輝さんによるカイロプラクティック講習会

・4日間の中間試験が終了し、「凝り固まった身体とどう向き合うのか？」そんな課題に取り組むためなのか、カイロプラクティックの講習は始まった。

奇妙な白く長い模型を出し、説明を始める。どうやら、背骨と骨盤の模型のようだ。人は普段の生活で、少しずつ「ズレ」を作っているらしい。最初は少しでも、月日経つと大きくずれてしまい、その「ズレ」を支えるために、大きな力が必要になることがわかる。背骨は脳の指令を伝える大事な、言ってみれば送電管のようなもので、これが狭くなったり、「ズレ」により電線に接触すると、不快感や痛みにつながる。つまりは、定期的にその「ズレ」を正しい位置にもどしてやるのが、健康につながるということが、カイロプラクティックの基本的な考えのようだ。また、その「ズレ」の治し方は独特であり、整体や理学療法などとは少し違うようであったが、どう違うのかまでわかるには時間がなさすぎるようだ。

後半は、実際に靭帯のゆるみがあると力が入りにくくなることや、「ズレ」を少し矯正することで、可動域が広がることなどを実践で見せていただいた。

このようなメディカルな内容を聞くには時間が短く、長井さんももっと伝えたいことがあるということだったが、皆の興味はかなり向いたようだ。

長井さん自身も「自分も勉強中」というように、体のつくりをよく学び、カイロプラクティックの理論を学ぶことが、健康に過ごすことにつながりそうだと思える実習であった。

